

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス「マーム」		
○保護者評価実施期間	令和8年1月8日		～ 令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55人	(回答者数) 50人
○従業者評価実施期間	令和8年1月8日		～ 令和8年1月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月9日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士、児童指導員、社会福祉士、理学療法士といった専門職が療育、支援に関わっている。	・理学療法講座を設けるなど、各専門職の強みを生かした支援を行っている。	・就労移行支援事業や定着支援事業等、法人内のそれぞれの事業の繋がりを強化し、職員のスキルアップを図る。
2	卒業後の進路について、法人内就労移行支援事業所の利用を希望するケースもあり、情報交換会や通信等で進路選択に関する情報発信を行っている。	・法人内就労移行支援事業所での体験実習時の情報共有をしている。 ・情報交換会で、進路選択や日常的な関わりに役立つ情報提供をしている。	・保護者の要望を聞く機会をこまめに設ける。 ・情報交換会に不参加の方にも結果報告として伝える。 ・通信を連絡用アプリで配信するなど、全ての利用者に行き届くようにする。
3	集団での活動だけでなく個別対応にも力を入れている。	・利用者の様子を観察し、少しの変化でも把握している。 ・相談しやすい雰囲気を提供して、傾聴を心がけている。 ・理学療法士を配置し、理学療法の観点からも支援をしている。	・日頃から利用者の様子をしっかりと観察して、些細な変化を見落とさないようにする。 ・必要に応じてパーテーションや個室を使う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の機会が少ない。	・施設内で過ごすことが多く、地域住民と日常的に関わる場が少ない。 ・職員が地域の施設、行事等を十分把握できていない。	・地域の活動等の情報収集を行い、参加できそうなイベント等から交流の機会を作る。
2	利用者の状況や人数によって、活動スペースが狭く感じる時がある。	・職員の目が届くようにするため、全員が一部屋で過ごすことが多い。	・活動室以外のスペース(食堂や多目的ホールなど)を利用し、人数が分散するよう工夫する。その際は必ずその場に職員を配置する。 ・気候によっては外の活動も取り入れる。
3	作業や清掃、講座等様々なプログラムを行っているが、種類が多く定着に時間がかかる。	・プログラムの種類が多く、また、利用者の通所頻度は週に1～2回の方が多いため、同じプログラムに再び参加するまでに間が空く。	・利用者の個々の課題にあわせて核となるプログラムを提供し定着を図る。